日本勤労者山岳連盟 · 静岡県勤労者山岳連盟

据野麗峰山の会 (sine 1994)

第25期·6巻 2019年 8月号 NO. 216

仲間と仲間を結ぶ機関誌



北の夏山

山行NO. 1825 2019. 07. 15 幌尻岳~戸蔦別岳

Club

8月度例会報告

2019.07.28 生協2F 16:00

1. 活動報告

まったりハイク 07月31日(水) 乗鞍岳 会員5名+一般2名

NO. 1825-3 O7月18日(木) 斜里岳(通算・2回目)

NO. 1825-2 07月17日(水) 雌阿寒岳(雌阿寒温泉~オンネト—=通算・2回目)

NO. 1825-1 O7月14日(日)~15日(月) 幌尻岳(額平川~戸蔦別岳~山荘)

2名 NO.1824 07月06日(土) 宝永山・2352m峰(歩荷訓練) 3名

2. 今後予定(変更もあります・日程確認の為、山の会以外の予定も掲載しました)

2019年度 2018年度

7月度 28日(日)8月例会

8月 03日(土)

04日(日)

08日(木)8日~10日=北岳(両俣小屋から)

09日(金)

10日(土)

11日(日)山の日

12日(月)振替休日

13日(火)

14日(水)

17日(土)

18日(日)

31日(土) 日本二百名山ツアー

9月 01日(日)

29日(日)安全登山学習会 焼津市=満観峰 9:00花沢駐車場集合 5~6名

10月 27日(日)安全登山講習会・・・清水区=ふれあいホール 13;30~

「地図の読み方」講師=静大教授・村越 真

車1台・・・足代は会負担します

11月 10日(日)あさぎり山の会・・・30年記念パーティー 富士宮・・・後藤出席

24日(日)東部ブロック交流ハイク 山梨・羅漢寺山

大型バス1台=参加費3000-。

- 3. 25周年記念登山
- 4. リニア署名・・・依頼中・・・住所は全員記入する「同上」は駄目
- 5. 会費、あと1名(KM)
- 6. 会員募集=広報「ながいずみ」「三島広報」の8月号に掲載。

山行NO 山行NO. 1824

日 時 2019.07.06(土)

山 域 富士山·宝永山2352m峰

コース 周遊道7:08-幕岩一三辻一御殿庭10:04-2352m峰10:44-御殿庭(昼

食) 11:00~12:01-周遊道13:35

標高差 上り 周遊道・橋約1340m~2352m峰=約1912m

下り /

参加 GT, KH, IK

上部は強風だった

天気は最悪だった。ただ、このところ悪天候がつづき、山に行けず欲求不満。加えて、夏山を迎え、 体力低下が心配。「少々の雨でも歩きたい!!」で出かけた。

御殿場はショボショボの小雨。しかし、西の上空は案外明るい。今回は幕岩沢(仮称)~幕岩~三 辻~御殿庭~2352mを目指した。

沢下部は物凄い押し出し。以前の景観はなかった。このところそれほどの豪雨はなかったと感じていたが、お山は必ずしもそうでないようだ。



ツルツルの溶岩床を進み滝を上る。K さんに写真用に上って貰ったが途中で「スルスルスル~」と滑って小さな滝つぼにドボン。靴の中は水びだしで最悪だった。

沢の樹間に唐突に富士山が現れた。一同感嘆。いつの間にか雨は止んで上空は晴れた。富士山の場合、こんなシーンが多い。雲の上は青空が見えた。沢は幕岩下で終わり、右岸を上る。(山の場合、右岸は下から見て左側)。適当に湿っているので、サクサクと上りやすい。ただ、今日の私の荷物は重かった。



当然、歩行スピードは違う。でも、彼らはそんなことはどこ吹く風で、「今日は楽でイイな〜」と ノンビリ登山を満喫していた。私は「自分のため」と決め込み、覚悟で上る。早くも出たキノコを 物色したり、ま、急がなければ、全く問題はない。

小さな尾根を越えると、後ろから若い男子が二名やって来た。ランナーだった。結構、寒い日だったが、二人は半ズボン。聞けば「頂上まで行く」という。しかし、2350m峰で風がかなり強かったので、頂上は無理でなかったか。

御殿庭上り途中の登山道に、昔のものと思われるゴミが埋まっていた。私の54年の登山記憶では、 過去、ここに小屋・人工的施設はなかったと思うが、調べてみる必要がある。仮に掘っで大規模な ゴミ跡なら処分が必要になる。

先日も富士宮六合小屋付近に「埋まった過去のゴミ遺産」があった。本来、小屋は直ちに処分しなければならないが、その努力を怠っている。それが、皆さんが知らない「世界遺産の現実」である。



御殿庭

2352m峰



ベニバナイチヤクソウ

キャラバン・ツアー

第二火口の肩に出ると風が強かった。咲いているであろうと期待した「ベニバナイチヤクソウ」が やっぱり咲いていた。南側になく北側にあった。ほか、フジハタザオ・ミヤマオトコヨモギ・オン タデが花盛り。

ひと上りで2352m峰。風が強い。下界は暑さでうだっているが、ここは別世界。踵を返して下る。新六合からゾロゾロ下ってくる。御殿庭で昼食。ビアが旨い。御殿庭のカラマツが随分大きくなった。この調子では20年後、林になるだろう。先ほどの連中が下ってきた。キャラバンのツアーだった。富士宮五合から新六合に上り、御殿場二合に下るツアー。

登山でなく、概ね下山である。お揃いの LEKI ストックを持参していた。情報では、ツアーに参加の際、LEKI ストックを貸し出しているそうだ。また、キャラバンは、LEKI ストックの販売もしているという。

午後もサクサクと快適に下る。宝永山2352m峰は、近くてイイ山だ。

山行 NO 山行 NO 1825-1

日 時 2019.07.14(日)~15日(月)

山 域 日高山脈・幌尻岳(2052m・深田百名山)~戸蔦別岳(1959m)

07月14日 (晴れのち雨)

コース とよぬか荘バス8:00ーゲート発8:52-北電取水口—額平川渡渉点10:49-幌尻山荘12:39 (泊)

標高差 上り 林道終点約730m~幌尻山荘約950m=約220m(林道長い)

下り なし

3年連続の北海道

北海道は今年で3年連続。今回の主な目的は、懸案の幌尻岳登山。過去、2年は上れなかった。 一昨年は北面のチロロから目指したが、台風で林道が流され4時間歩き時間切れ。 昨年は、大雨で額平川(ぬかびらかわ)が増水し、四ノ沢付近までしか行けず我々3名は下山。 一緒だった、管理人のみ山荘に入った。今回、管理人と再会したが、彼は2週間小屋に閉じ込めら

れたとのこと。我々は上らなくて良かった。(北海道では、閉じ込めは、よくあること)



サン・フラワー

13日、大洗から19:45夕方便フェリーで14:00苫小牧着。

フェリーは、往復約4万。寝室はカプセルホテル風のベッドで一応個室。レストランタ食は1500-でマズマズ。風呂が完備。朝も6:30から利用できる。

船はサン・フラワー。帰りは少し揺れた。深夜便は揺れないという。深夜便は元々、日本海用の船で荒波に強い設計。揺れている時、廊下を移動するとフラフラする。時間が長いのでやや退屈。本などを持参したほうがイイ。

北の天気はまあまあだった。今回は、天気を精査し臨んだ。フェリーは当日、空いていれば変更は 可。結局、2~3回日程を変更した。苫小牧から車で取手町の「とよぬか荘」着。丸坊主で強面の



サッポロ生・500-





とよぬか荘

ジンギスカン料理



2018年 · 額平川

2019年

管理人は、昨年の我々を覚えていた。兎に角、昨年の前半は大変だったらしい。

とよぬか荘は空いていた。今日、日帰りの女性と情報交換。多忙なので日帰り。額平川の水は少ないという。翌朝は、4時のバスもあるが、8時のバスで入山。ドライバーは、虫が嫌いな若い方。1時間で終点。ここから林道を約2時間歩く。昨年、雪代で流された終点の橋は、すでに再建されていた。随分、早い対応。

額平川は全く問題なく幌尻山荘着。小屋は空いていた。昨年の管理人と再会。年齢は50歳くらい。



2018年

2019年



幌尻山荘

いろいろ話をしたが、自宅の庭に「コマクサのお花畑」がある写真を見せてくれた。北海道ならではの話である。

幌尻山荘(小屋)は、ログハウス風の二階建ての立派な作り。素泊まり2000-。食料は自分で上げる。水はある。ビア350m l が700-。板の間に敷く毛布が一枚出る。元々、営林署の施設を町が払い下げ山荘にした。しかし、道路がない山で機材・部材を上げるのは、容易なことではなかっただろう。古の関係者の情熱には、感謝の言葉もない。ここに小屋がなかったら、簡単に上れない。

収容人員は45名。完全予約制。つまり日帰りを除けば、一日45名しか登山出来ない。電灯はある。電源は、水力発電。同時にバイオトイレにも使っている。

トイレは一杯になったら人力で下すという。地元の方々が、正に「ふんとう」している。頭が下がる。遡行するだけで大変な沢を背負って下す。詳しくは下記にあるので、読んでいただきたい。https://bavarde.exblog.jp/16314408/

北海道に初めて渡ったのは1975年。その時、幌尻岳を上る機会がなかった訳でもなかったが、何故か上らなかった。理由があった。その5年前、日高のカムイエクウチカウチ山で福岡大学生がヒグマに襲われ3名亡くなる事件があった。それ以来、ヒグマは「怖い」イメージが出来てしまった。

飲んでいると、17時ころツアーの方が10余名来た。ガイドは有名な方らしい。若い女性が多かった。殆ど無所属だろう。条件次第だが、1日3万円以上の高いガイド料を支払って参加。山岳会に入る気持ちはないだろうか。

雨が激しくなった。その中、単独の自衛隊員が周遊コースで下って来た。45歳くらいで馬力はありそう。周遊コースの方は少ない。多くはピストン。我々も明日、周遊コースだ。聞けば「ハイ松が酷かった」だった。福島から単身赴任で来ているという。いろいろ聞けば現在、自衛隊は予算が厳しく、装備は古く、月給も低い。「ほとんど、ブラック企業」の言葉が印象的だった。夜は、シュラフカバー2枚で、やや寒かった。

7月15日(月)曇り時々晴れ

コース 起床3:45-幌尻山荘発4:45-金名水4:58-幌尻岳6:52-最低コル8:03-戸蔦別岳9:04-幌尻山荘分岐9:41-額平川・六ノ沢10:57-幌尻山荘11:39~55-林道終点13:37-バス停15:55-バス17:00-とよぬか荘18:00(泊)

標高差 上り 幌尻山荘約950m~幌尻岳2052m=約1102m 最低コル約1750m~戸蔦別岳1959m=約209m

> 下り 幌尻岳2052m~最低コル約1750m=約302m 戸蔦別岳1959m~バス停車場約770m=約1189m

44年ぶりの幌尻岳

雨は止んだ。夜、寒かったので天気を期待する。5時前山荘発。既に十分明るかった。出掛けるのは我々だけ。下草を刈ってあるので、カッパは履かなかった。休養は十分なのでグングン上る。山腹を回り込むと尾根に出た。標高1500m付近に「命の水」がある。初めての日高の山々は、朝モヤに煙っていた。この辺りから本格的な上りになる。次第に花が凄くなる。



戸蔦別岳方面

バイケイソウとニッコウキスゲ



幌尻岳・右が北カール



エゾノツガザクラ

ミヤマアズマギク

涼しくて上りやすい。稜線に青空がのぞき期待した。一昨日、とよぬか荘で会った方は、幌尻が深 田百名山最後で好天気に上りたいで、わざわざ、とよぬか荘2泊、幌尻荘2泊した。しかし、山の 天気が果たして思うように上手くいくものか??

書物にあるように、西からの幌尻は何処がピークかハッキリしない。何となくダラダラっとしている。ズルズル上っていくと、新冠(にいかっぷ)登山道分岐着。このコースは、グレート・トラバースの田中陽希が上って一躍有名になった。ただ、林道を19kmほど歩く。同時にコース的にイマイチ面白くない。田中は縦走故、ここを選んだのか??(今年は崩壊で通行止め)



ミヤマオダマキ

頂上



戸蔦別岳方面

幌尻岳には簡単に着いた。初めて北海道に渡って、実に44年ぶりだった。特に感慨はない。コースタイムよりだいぶ早かった。頂上には、チロロからの若い衆が1名いた。戸蔦別辺りで泊まったようだ。しかし、我々の今日は12時間行動なのでノンビリは出来ない。

感激もそこそこに戸蔦別岳に向かう。多くの登山者は山荘からピストン。しかも行き・帰りで 2 泊する。我々は、戸蔦別から糠平川源流に降りて一気に帰る。理由はある。戸蔦別から七ッ沼カールを抱いた幌尻はサイコーの景観。それを見ないで帰れない。(死ねない??!!笑い)





幌尻岳から七ッ沼カール (右) と戸蔦別岳

長居せず戸蔦別に向かう。ガスが去来。程なく、下から男性3名が上って来た。チロロからだ。年配の方がいた。よく頑張る。幌尻山荘の下降点を聞く。北戸蔦別の道標はあるが、山荘の道標はないという。「注意して」のアドバイス。有難い。エールを交わし分かれた。

昨夜の自衛隊員が「ハイマツが酷い」といってたが、驚くほどのものではなかった。この程度は南 ALPSにもある。ただ、昨日午後は雨だったから、その分は大変と思う。



ミヤマアズマギク

エゾキンバイ

最低コルから七ッ沼に下る道があった。情報では、高校生パーティーが泊まったとあったが、確認できなかった。ここに泊まるのはよいが、皆さん「大」の処理をどうするか。ひと夏、大人数が泊り「大」を行えば環境への影響は大きい。本来「持ち帰り」をすべきだろう。マッキンリーなど徹底しているが、日本は甘い。



戸蔦別岳から幌尻岳(左下が七ッ沼カール・右のピークが幌尻岳)

最低コルから、戸蔦別まで標高差約200mは厳しい上り。ガスが晴れそうで晴れない。ここから スッキリした幌尻を期待したが・・・。

戸蔦別に上った。未練はあったが下山。ヨツバシオガマの色が素晴らしい。花丈が低く纏まっている。山荘下降点は分かりにくかったが分かった。ハイマツが大きい。左手に幌尻の北カールが広がっていた。「よくぞこんな尾根に道を作った」感じの尾根。

大昔は、山荘からの道はなかったから、ここを上ったであろう。ただ、深田久弥は、東の新冠川から七ッ沼経由で上っている。1961年(S36年)8月初旬。58年前だった。(幌尻山荘は、1966年ころ建設。山荘から北カールの登山道も同じころ拓かれた)

額平川・六ノ沢出合まで標高差約826mは半端でなかった。体はガタガタ、膝はガクガク。行動時間は既に6時間だった。沢靴に替えて山荘に下る。大きな渡渉はなかった。山荘裏で「水力発電装置」を確認したが分からなかった。山荘で大休止。ラーメンを食う。

例の幌尻で深田百名山の方と再会。しかし、明日の天気はハッキリしない。倍以上になったザック



戸蔦別岳の古い地層の岩

百名山氏と再会

を背負い、再び下山。

やっぱり下りが楽だった。ツアーが2パーティー上って来た。年配の女性が多い。危なっかしい歩きでガイドも大変だ。女性のサブ・ガイドもいる。

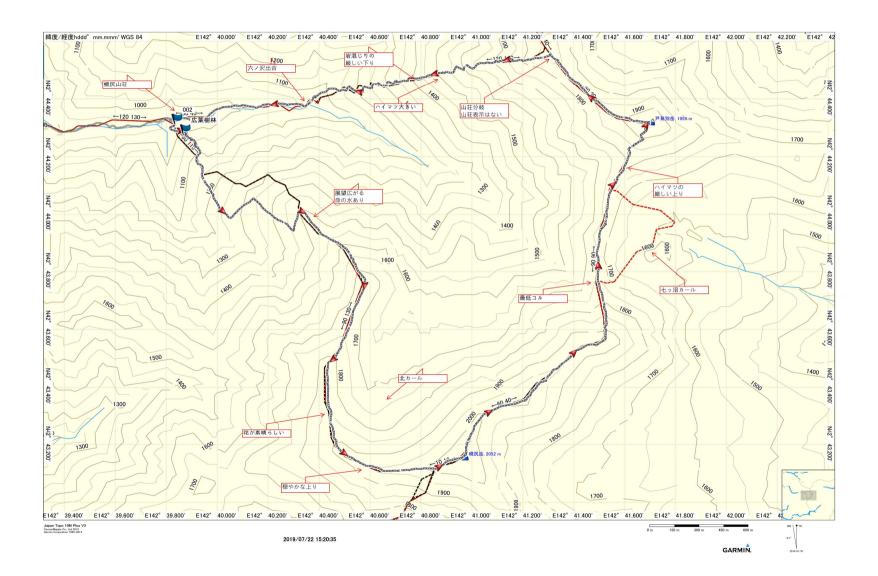
山荘管理人の話では、ちょっと前、この辺でクマがシカを食べていたという。しかも2回だ。シカの足が早いと思うが、管理人いわく「クマの足はあなどれない」だった。確かに山レコを見たら、昨年、1日に2回ここでクマが目撃されている。実際、会ったらビビるね。今夜の山荘は、ツアーが3パーティーで混雑。混んだ小屋は辛い。

程なく林道。登山靴に履き替え歩く。長い、暑い、足は重い、荷も重い、疲れた、の「五重苦」。 今日、日帰りの若い衆(といっても50歳代のバツイチ)と交流。百名山狙いで兵庫から来た。明 日は、トムラウシを日帰りという。サーフィンが好きで伊豆に時々来るという。

バス停に着いた。疲れて口を利くのも億劫だった。無理もない、この歳で今日の行動は、11時間に及んだ。プレハブ小屋でバタンキュー。1時間でバスが来た。ドライバーは同じ若い衆。感じはよい。バスには、ジュース・ビア販売がある。ロング缶600ーでゲット。有難い。再び、とよぬか荘泊。素泊まりは3000ー。ガラガラだった。長い長い、幌尻岳は終わった。

(了)





山行NO 山行NO. 1825-2

日 時 2019.07.17日(水)

山 域 雌阿寒岳(1499m·深田百名山)

コース 阿寒温泉5:07-七合目6:37-雌阿寒岳7:16-オンネトー登山口9:16-

湖畔道一阿寒温泉10:48-斜里岳移動

標高差 上り 阿寒温泉約710m~雌阿寒岳1499m=約789m

青沼・赤沼を見に行く

雌阿寒岳は現役の活火山である。八合目付近からゴォーゴォーと噴煙の音が凄くて今にも噴火するんじゃないかと不安を感じた程である。今回は雄阿寒温泉コースから上りオンネトーコースを辿る。 雄阿寒温泉には昔 2 件の宿があったが、1 件のお風呂で入浴中に硫化水素を吸い亡くなった。それで宿を閉めてしまった。今は1 件のみです。と登山客から教えてもらった。野中温泉は現存しているが、もう1 件は廃屋化していた。



無料駐車場は広い。きれいな立派なトイレ もあり、此処で皆車中泊をしていた。大阪 からきていたご夫婦は毎年3ヶ月位北海道 を巡り歩くとか。

駐車場から少し下り⇒横看板をよく読んでから登山開始。火山の恐さと熊の顔の迫力にまける。ザックの鈴を確認し、木の根の張り出した赤エゾ松のスッキリとした林の中を森林浴をゆっくりと味わいながら歩く。



空は高く、曇り日和だが雨は感じられない。これなら阿寒富士までいけそうだ。小鳥のさえずりが

後押ししてくれた。駐車場にあんなに車があったのに誰も登ってこないのが不思議。 だが、山はやっぱり静かに登れるのが一番いい。「こんにちは。こんにちは」と米つきバッタのように挨拶ばかりでは山に登っている感じが全くしない。



段々と足を高くあげるようになり高度を稼いでいく。三合目までくるとハイマツー辺倒になり疎ましい道になる。そのうち火山礫の道に変ると辺りが垣間見れるようになり、上半身がせいせいとする。大きな岩をつかみ乗っ越すようにもなった。六合目辺りから火山礫の裸地状態。足元にはイワブクロが見事だ。



イワブクロ





メアカンキンバイ

今が満開とばかり咲き誇って見事な群生だ。花も素晴らしい。一つの花が塊となって瓦礫の上にあ ちこちと点在している。



メアカンフスマ (固有種)

8合目を過ぎる頃からガスが立ち込め始め、霧状の雨粒が全身にまとわりつく。CLは雨具を着こんだが、「私は相変わらず濡れて参ろう」だ。前髪はボンダラゲ状態で滴がしたたり落ちて目に入り煩わしいが、花には水滴がつき活き活きとした表情がとても美しい。とにかく「きれい!素晴らしい!」の一言である。



9合目辺りから、「ゴォー!ゴッオー!!!」と凄まじい轟音が耳に飛び込んできた。 ガスで噴煙が溶け込み目で確認はできないが音が活火山と表明していた。奇岩の底から 唸り声が鳴り響き、それは頂上通過まで聞こえた。晴れていれば噴気孔から、火口まで見 えたに違いないがガスで見えないのがとっても残念だ。写真で見た素晴らしい火口から 阿寒富士の全景を見たかったが・・・。又、来るしかないか・・・。





青沼(ネット写真)



赤沼(ネット写真)



オンネトー (右は阿寒富士)



頂上

頂上は雨と風で何も見えず、そそくさと退散。本来なら阿寒富士まで行く予定だったがこんなガスと霧雨では何も見えないと、オンネトーコースの標識に従って下山する。 途中、瓦礫の上に露を含んだ可憐なコマクサを発見。



瓦礫を好むコマクサだが富士山にはない。地形も富士山とよく似たような感じなのにねぇ・・・。 最後のイワブクロやその他の花を目で追いながら尚も下ると、

背の高い樹林帯にかわる。小休止後、オンネト一登山口に到着。下界は晴天なり。 立派な建物があり、ここで濡れた物を乾かし再び最初の温泉口まで約1時間足らず。









野中温泉・露天風呂

出だしは湖を回り込みながら歩くが、そのあと、何と樹林帯の中を登っていくのだ。暑いし、疲れているしエンヤコラと気合を入れなおして頑張った。

最後の最後、駐車場の見える手前が湿

地帯で木道が続いていた。

「前にも落ちて皆にコケにされたけれど、まさか此処で落ちたりしないよねぇ」と後ろを歩く CL に振り向いた拍子に身体のバランスを崩し、湿地帯の中に落ちてしまった。

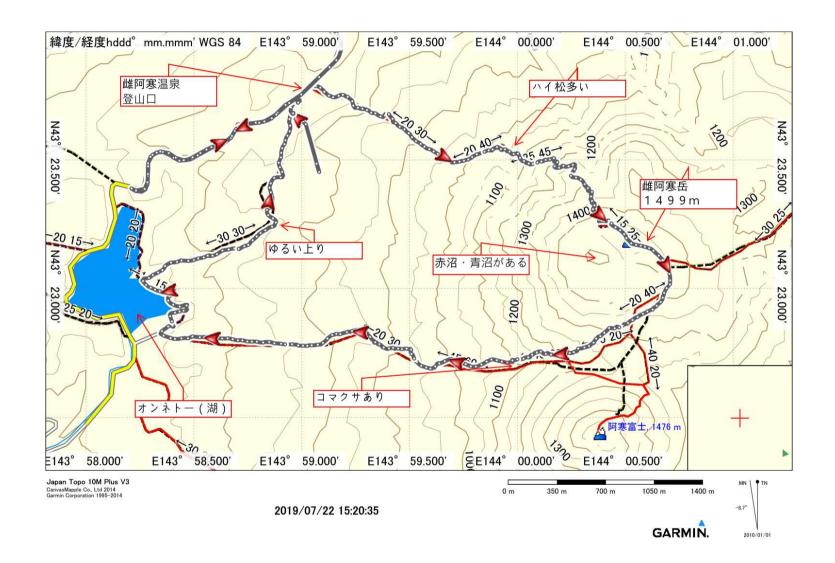
本当に話題作りの名人である。靴はまっ黄黄の泥んこ状態。自分で言うのも何だが、救い難い! 今日はガスで何も頂上からの展望はなかったが、でもその変り、ガスがかかったから見えた露を含んだ花達の活き活きとした表情、耳だけで聞く異常なまでの噴気音、湿っていたからこそ埃がたたないザレ地の歩き、これはこれで良かった。

1回歩いただけでは山の良さはわからない。「2回目にもう一度チャレンジしろ!」と言う事なのだと思って満足できた雌阿寒岳であった。

(了)

その他の記述(GT)

- 1. 雌阿寒は、29年ぶり二回目。記録を読むと、オンネトー・雄阿寒が見えたとあるが、赤沼・青沼が見えたか全く記憶がない。
- 2. 野中温泉は350-。内風呂熱い。露天はちょうど良い。広い休憩場があり利用できる。
- 3. 雌阿寒岳の下部は、ハイマツが多い。
- 4. この後、斜里岳に向かった。



具っ直登って行く古典的なルート だった。途中、羽衣の滝、万丈の かる。ところどころにフィックス 他、七重の滝など、美しい滝がか ープもあり、部分的にデリケー なので子供、年配者では無理か

百百

か。ウーン。何たる偶然。 登山道は清岳荘の前の一の沢を 跡の感じもする。 少なくなると上二股で、上部は背 そうだ。しかし効率は良いのでグ 面被われていた。一見、カールの の低い矮小化したダケカンバで一 もしれない。下りもちょっと厳し ングン稼ぐ。急登が終わり流れも 年配の方と会い下降路について

が中里さんだろうか。聞 情報交換したが、この方 きそびれてしまった。 御存知のように入会して ところもっと若い方で、 帰静後、電話で確認した

思えず、南アの山にいる とても1500m級とは えた。南斜里岳が立派で 明日登る雌阿寒岳など見 気に頂上を陥す。曇って 床方面、オホーツク海、 はいるが展望は良く、知 馬ノ背のコルに達し一

> 由して熊見峠を越える。 撮り下山。帰りは、竜神ノ池を経 だろう。セルフタイマーで写真を れで雪が付いたら更に迫力が出る と合流した。 車に戻り屈斜里湖めざし、家族

8月15日(くもり)

で行く。明後日は日高に登ると言 湖と雄阿寒が見える。途中で羅臼 とハイマツがでる。オンネトーの 房、子供は阿寒湖でマリモ見学。 ▽標高差=770 m 45-項上10:05-登山口11:10 で会った女性と一緒になり頂上ま エゾマツ、トドマツの林を抜ける 車を飛ばして雌阿寒温泉へ。アカ <タイム>雌阿寒温泉登山口7: 雌阿寒岳登山 今日もハッキリしない天気。女

レで帰静した。いつかまた来たい 山。車で釧路に向かい再びブルト っていた。写真を撮ってもらい下

単止めあり 玉石ノ沢ゲー 玉石人沢登山口 南徐里岳登山口 斜里岳 ような錯覚を覚える。こ

137

山行 NO 山行 NO 1825-3

日 時 2019.07.18(木)

山 域 斜里岳(1545m·深田百名山)

コース 清岳荘(せいがくそう)発4:34-旧道·新道分岐5:28-コル7:25-頂上7:

41-新道熊見峠分岐8:10-熊見峠9:00-旧道・新道分岐9:38-林道10:

16-清岳荘10:32-苫小牧一帰静

標高差 上り 清岳荘約685m~斜里岳1545m=約860m

下り //

滑滝を軽快に上る

雌阿寒岳から移動。下界の天気は良いが斜里岳は、南から強い風が吹き、ガスが掛かり上半分くらい見えない。昨日の雌阿寒も同じような天気。下界はマアマアだが上部は悪い。期待したオホーツク高気圧は、今夏は、まだなのか??

斜里岳山麓は広大な農地。ジャガイモ・ビート・小麦が主な作物。畑ではオネエサンがビートの手 入れをしていた。畑を仕切るシラカバが、いかにも北海道的で美しい。



清岳荘

登山口である清岳荘は2階建て山荘風のまだ新しい立派な建物だ。寝袋、食料持参の素泊まり2,050円。車中泊すると一人510円、トイレ使用料行くたび100円かかるが、泊る場合は全て含まれるので素泊まりにした方が安い。

2階の大広間には其の日8人ばかりの宿泊者がいた。その中に、今は体力がなくて上れないので、今まで登った山の麓まで来て、其の頃を懐かしんでいる・・・という年配者がいた。年齢を聞くと同じ歳であった。愕然!!!私達ももうそんな年齢になっていたのか。自分では「まだまだ行ける」と思っても傍から見ればもうそんな年齢なんだ・・・。

少し心が萎えたけれど朝駆けで登るため早く就寝する。外はガスがかかり小雨がパラついていた。



右奥の斜里岳は雲の中



向こうはオホーツク海

3:30 既に起き出した人のガサコソする音で目が覚めた。北海道は朝が開けるのが早い。この時間で外はもう明るい。「エェーイ!もう起きてしまえ・・・」と私達も起きだした。朝食を済ませ、トイレを済ませ、荷物を車に積み込み、天気が良い事を祈りながら、清岳荘裏手から4:34 出発する。昨夜は、向かいの男のイビキが煩かった。

昨日は寒かったのに今朝は意外と気温が緩やかだ。今日は旧道から頂上に至り下山は新道を下る周



ミソガワソウ



快適な滝がつづく

遊コース。どんな行程なのか期待に胸が膨らむ。樹林帯を抜け目の前に一の沢が開けた。暫くは右岸、左岸と飛び石伝いで渡り歩く。沢床は茶色い鉄サビの色が延々と続く。

「水は飲めるのかなぁ」とCLに聞いたら、「飲める」との返事。そう言えば、茶の世界では鉄釜で湯を沸かして茶を立ててるなぁ・・・と納得。

旧道と新道の下二股の分岐を過ぎると両岸には、紫色のミソガワソウが満開。きれいな小滝も続く。 沢の両岸に付けられたトラバース道はぬかるんで滑りやすく悪い。又沢の大きな岩を乗っ越したり、 まいたりしながら更に進むと、突然目の前に素晴らしいナメ滝が現れた。簾を垂らしたような見事 な滝が次々と現れる。茶色のナメに透き通る水が何とも美しい。

これだ!夏はやっぱりこれだ!沢靴で来なかったのが残念だ。水流の真ん中を飛沫を浴びながら遡行したかった。とにもかくにも沢靴を持って来なかったのが悔やまれた。

ナメはぬるぬるして滑る。チョット危ない急な高巻きを繰り返しながら高度を稼ぐとやがて上二股の分岐だ。奥に簡易トイレが設置してあった。この頃からガスが濃くなりCLは雨具を着る。私は寒くないので濡れるに任せた。ダケカンバやミヤマハンノキの間から、鮮やかな黄色のキンポウゲが群生。他に見る事のない花の大きさだ。癒される。

ここから馬の背まではジグザグの急なガレ場の登りになる。富士山で言えば胸突き八丁というと



チシマノキンバイソウ



ころか。ひたすら登る。馬の背に乗るとモーレツな風のお出迎えだ。身体にガツンと堪える。踏ん 張っても押し倒されそうだ。展望のいい所らしいが、ガスは濃く視界もない。

祠の前を抜け最後のひと登りで頂上着。「風が半端ないよ」先客が風に煽られながら下山。

風に押し倒されないように踏ん張って撮った写真が「これだ!」瞬間、ガスが切れオホーツク海の 展望が開けた。当たり!

とにかく風が強く長居は無用と直ぐに下山開始。上二股までは往路を下り、新道の熊見峠経由である。ダケカンバ林のアップダウンを繰り返し、熊見峠までの長い事ったら半端ない。



モーレツな風



チングルマ ウコンウツギ

C L は道にせり出した枝にコツンコツンぶつかり怒り心頭。1, 2 4 3 mのコブからハイマツの尾根道に出、やっと熊見峠か。晴れていればスッキリとした尾根道だろうが、ガスの中では複雑な地形としか思えない。それからは転がるようにして沢へ一直線に下りる。

下二股にガクンガクンと標高をさげ着いた頃にはガスも切れた。上着を脱ぎ一息入れる。

静岳荘に着くと、駐車場は満杯状態。その中にはツアーバスもいた。20人の団体だという。

あの沢沿いを20人で歩くのは厳しいだろうと想像する。管理人さんが車のナンバーをチェックを していた。聞けば下山確認だとか。有難い。

沢登の要素が多く私の好奇心を満足させてくれた斜里岳に乾杯!しながら次の行程場所に出発。

その他の記述(GT)

- 1. 斜里岳は、1990年以来、2回目だった。
- 2. 清岳荘まで意外と分かりにくい。
- 3. 清岳荘は、新しくキレイ。消灯は9時。意外だが、水はローリーで上げている。 トイレは、ウオシュレット。
- 4. 深田久弥は、ここに1959年上った。当時は、清里駅から延々、10Km近く歩いた。
- 5. 清里・道の駅の温泉は、安くて良いところ。

入口には、一面にシナノキンバ岳の大樺沢に似た大沢に出る。とになった。樹林帯を抜けると北斜里岳、雌阿寒岳を一緒に登るこ

入口には、一面にシナノキンバイ (チシマキンバイソウ?)が見られないものに、チシマクモマグサ、レブンコザクラ、エゾツツジなどが見られた。霧が晴れてオホーツクの海の羅臼平を越えて、バイマツの海の羅臼平を越えて、アイマツの海の羅臼平を越えて、アイマツの海の羅臼平を越えて、アイマツの海の羅臼平を越えて、アイマツの海の羅臼平を越えて、アイマツの海の石が多かった。

今回、珍しい花は全て写真に収今回、珍しい花は全て写真に収容を開発、牧野の図鑑で同定したが正確だった。後日、竹端さんとなりを問われたものだった。 たかと問われたものだった。 最後の岩場を越えるちも頑張る。 最後の岩場を越えるちも頑張る。 最後の岩場を越えるちも頑張る。 最後の岩場を越えると頂上だった。 記念写真を撮り早

沸(とうふつ)湖畔の原生亭。こなかった。長い下降で登山口着。 なかった。長い下降で登山口着。 なったが、別にどうということも



延長で負けた。丸いメガネをかけ高校の試合をやっていたが、結局り一つなく、ビカビカに光っていり一つなく、ビカビカに光っていり一つなく、ビカビカに光っていりが、原下などチの宿は少し変わっていてスリッパの

●料里岳登山

云に車を飛ばす。登山口の清岳荘 大気はまあまあ。午前中は網走 で駅で分かれ釧網本線で屈斜里 で駅で分かれ釧網本線で屈斜里 で選泉に向かう。私は目の前 に聳える利尻島を彷彿させる斜里 に聳える利尻島を彷彿させる斜里

188・中里宣資」とあるではなと「静岡県駿東郡長泉町下土狩1私の前に登った人の住所氏名が何うとしてビックリした。11時頃、うとでは、11時頃、11時頃、11時頃、11時頃、11時頃、11時頃、11時頃、1

には簡単に着いた。

いか。ウーン。何たる偶然。 だった。途中、羽衣の滝、万丈の 具つ直登って行く古典的なルート かる。ところどころにフィックス **運、七重の滝など、美しい滝がか** トなので子供、年配者では無理か 登山道は清岳荘の前の一の沢を ブもあり、部分的にデリケー

> そうだ。しかし効率は良いのでグ もしれない。下りもちょっと厳し 面被われていた。一見、カールの の低い矮小化したダケカンバで一 少なくなると上二股で、上部は背 ングン稼ぐ。急登が終わり流れも

跡の感じもする。 年配の方と会い下降路について

情報交換したが、この方

御存知のように入会して ところもっと若い方で、 帰静後、電話で確認した きそびれてしまった。 が中里さんだろうか。聞

単止めあり

玉石ノ沢ゲー

玉石ノ沢登山口

思えず、南アの山にいる えた。南斜里岳が立派で 明日登る雌阿寒岳など見 はいるが展望は良く、知 気に頂上を陥す。曇って とても1500 m級とは 床方面、オホーツク海、 馬ノ背のコルに達し一

南綠里岳登山口

ような錯覚を覚える。こ

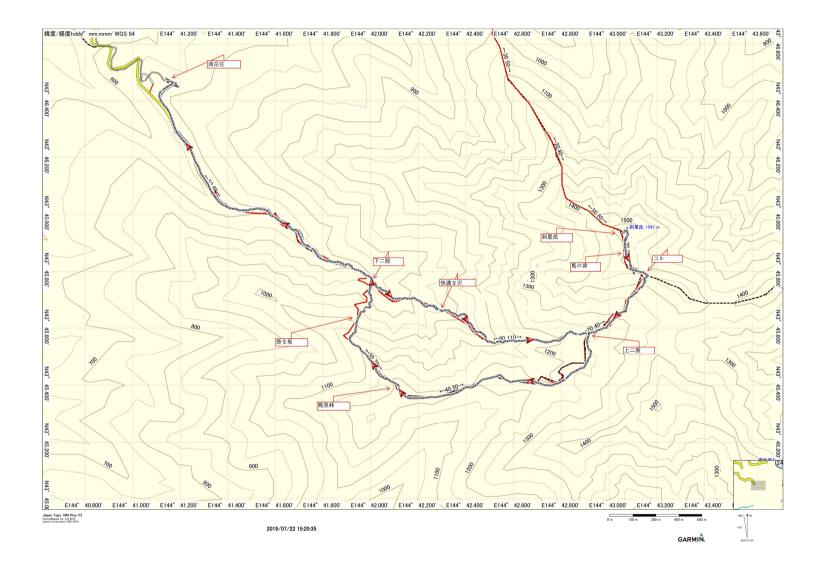
と思った。

撮り下山。帰りは、竜神ノ池を経 だろう。セルフタイマーで写真を れで雪が付いたら更に迫力が出る 由して熊見峠を越える。 と合流した。 車に戻り屈斜里湖めざし、家族

8月15日(くもり)

今日もハッキリしない天気。

▽標高差=770 m 45-項上10:05-登山口11:10 湖と雄阿寒が見える。途中で羅臼 車を飛ばして雌阿寒温泉へ。アカ 房、子供は阿寒湖でマリモ見学。 レで帰静した。いつかまた来たい 山。車で釧路に向かい再びブルト で行く。明後日は日高に登ると言 とハイマツがでる。オンネトーの エゾマツ、トドマツの林を抜ける <タイム>雌阿寒温泉登山口で: っていた。写真を撮ってもらい下 で会った女性と一緒になり頂上ま 雌阿寒岳登山



パチリで報告 写真 КН

- ●2019·07·31(水) ●乗鞍岳(3026m)
- ●まったりハイキング KH/MM/GM/HT/SA+一般2名



乗鞍岳 イワカガミ



アオノツガザクラ



コマクサ





イワツメクサ

日本勤労者山岳連盟 静岡県勤労者山岳連盟・東部ブロック 裾野麗峰山の会(愛称・れいほう山の会)

会報「れいほう」 第25期・6巻 NO.216 2019・8月号

連絡先 静岡県駿東郡長泉町下土狩1541-12 徳山荘 090-8956~9990 055-986~6075 HP http://susono-reihou.babyblue.jp/